

第95期 中間報告書

平成22年4月1日から平成22年9月30日まで



乾汽船株式会社

経営理念

国際海上輸送を通して人々の生活向上に貢献します。

基本経営方針

1. 様々なニーズに柔軟に対応し顧客に信頼される船舶運航業者を目指します。
2. 企業モラルの向上とコンプライアンスを尊重する企業風土を醸成します。
3. 透明性および効率性の高い経営で企業価値の向上を図ります。
4. 安全運航の徹底および海洋・地球環境の保全に努めます。

環境方針



乾汽船株式会社は、国際海上貨物運送業として、地球環境を守りながら社会の発展に貢献していくため、以下の事項を環境方針として掲げます。

- (1) 海難事故による海洋汚染の重大性を自覚し、環境保全並びに環境汚染の予防に努めます。
- (2) 環境に関する国際条約、法規制、条例、その他必要に応じて自主的に規定した環境保全基準を適確に順守します。
- (3) 私たちの業務が環境に与える影響が如何に大きいかを自覚し、地球温暖化を含め環境問題の解決に向けて、環境マネジメントシステムを継続的に改善し環境パフォーマンスの向上に努めます。
- (4) 環境目的及び目標の達成度を確実にするため、環境方針を含む環境マネジメントシステムの定期的見直しを行います。
- (5) 私たちは、環境マネジメントシステムに適合する環境教育の実施により、環境に対する意識の向上に努めます。
- (6) 当社の環境方針、環境保全活動は全社員、関係会社、取引先会社の人々へも周知され、一般の人々も当社のウェブサイトにより入手できます。

事業継続マネジメント方針/目的



当社は予想される災害や事件・事故等による人的・物理的被害を最小限に抑え、必要となる事業の継続及び速やかな復旧を実現することにより、企業としての社会的責任を果たすとともに、各ステークホルダーに信頼される船舶運航業者となることを目的とする。



株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
さて、平成22年度（2010年度）第2四半期連結累計期間の業績につきまして
ご報告申し上げます。

乾汽船株式会社 代表取締役社長

乾 新悟

■第2四半期の概況

当第2四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年9月30日まで）の世界経済は、欧米におきましては景気の先行きに対する不確実性および不透明感が高まり、特に域内格差が鮮明な欧州におきましては、欧州内で発生しました信用不安により不透明感がより増幅され、それにともない消費マインドが萎縮し、景気回復の足を引っ張りました。一方、高成長を続ける中国・インドを始めとしたアジア経済は、景気拡大の増勢がやや鈍化したものの、全体として高いレベルの経済成長を維持しつつ堅調に推移しました。一方わが国の経済につきましては、デフレにより企業収益が伸び悩む中、経済対策の効果の減退や一段の円高の進行および長期化により事業環境は厳しさを増し、景気の踊り場色が強まり、腰折れリスクの増大が懸念されました。

当社の事業を取り巻く環境といたしましては、運賃および用船市況につきましては、昨年度に引き続きゆるやかな回復基調にありましたが、中国等の荷動きの減少を受け、6月に市況がいったん下落した後、一進

一退の状況となり、その後も荷動きの減少や円高傾向に推移する為替動向の影響を受け、先行きの不透明感が強まりました。

このような情勢のもと、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高96億16百万円（前年同期比42.6%増）、営業利益 21億16百万円（同335.2%増）、経常利益19億47百万円（同308.0%増）、四半期純利益12億23百万円（同212.2%増）となりました。

当第2四半期連結累計期間の平均為替レートは1米ドル89.53円（前年同期比6.41円の円高）となりました。また、船舶の運航上の主要なコストである燃料油の平均価格は、1トン当たり491ドル（前年同期比135ドル増）となり、前年同期との比較において業績回復の足かせ要因となりました。

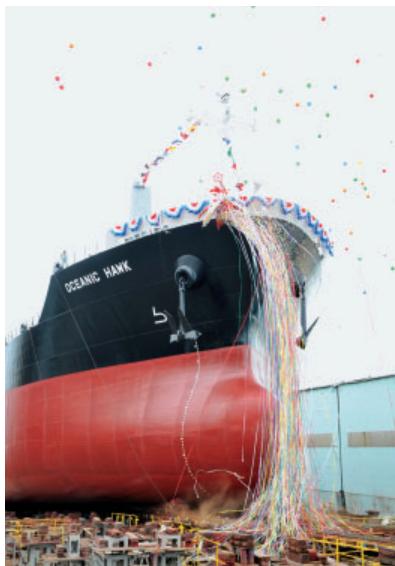
■船隊整備

当社は、スモールハンディ型船を中心とした競争力のある船隊整備に取り組んでおります。

当期におきましては、本年5月から7月にかけて、長期用船しておりました船舶を2隻、船主に返船いたしました。一方、10月にはスモールハンディ型で



29,000重量トン型の新造船（船名：OCEANIC HAWK）の長期用船を開始いたしました。さらに、今後当社では平成24年から26年にかけて高性能次世代船として、当社海外子会社を通じて33,000重量トン型の新造船を3隻、順次投入することを決定しており、当社の中期的な船隊整備計画に則って実施してまいります。当第2四半期末現在、新造船（新造長期用船含む）の発注残数は、4隻となっております。



平成22年10月竣工の新造船、OCEANIC HAWK

■通期の見通し

当第2四半期連結累計期間の業績は、平成20年度の高市況後の急落からの市況回復にともない前年度より引き続き大幅に回復しており、当期の利益は期初の計画を達成し、さらに第2四半期末の段階ですでに前年度の通期を上回る利益を確保することができました。

このように、当期の業績は当初の予想を上回り順調

に推移しているものの、運賃ならびに用船市況が不透明感を増しており、また為替レートにつきましても当面円高が継続することを前提に見通しを修正いたしました結果、通期の連結業績につきましては、売上高174億円（前期比17.0%増）、営業利益26億円（同85.8%増）、経常利益24億円（同61.7%増）、当期純利益15億円（同52.5%増）と予想しております。

なお、通期の連結業績予想における前提は、為替を1米ドル80円、燃料油価格を1トン当たり530ドルとして策定しております。

売上高 174億円

経常利益 24億円

当期純利益 15億円

■配当

配当金につきましては、配当性向を通期の当期純利益の20%を目安とし、資産の売却損益ならびに投資計画を加味して利益配分することを基本方針としております。通期の具体的な配当金額につきましては、この基本方針と最終的な業績の推移を踏まえたうえで決定させていただきます。なお、当社は中間配当につきましては行っておりません。

見通しに関する注意事項

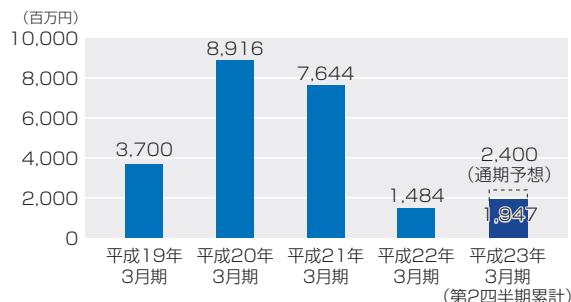
本報告書の記載事項のうち、将来の業績等に関する見通しは歴史的事実ではありません。現在入手可能な情報を鑑み、資料作成時における一定の前提ならびに当社の判断に基づいて作られていますので、実際の業績は、既知または未知の不確定要素により見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご了承ください。



■売上高



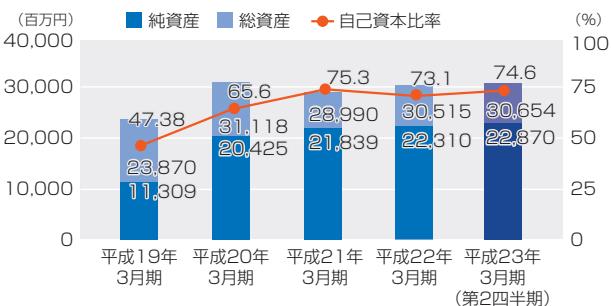
■経常利益



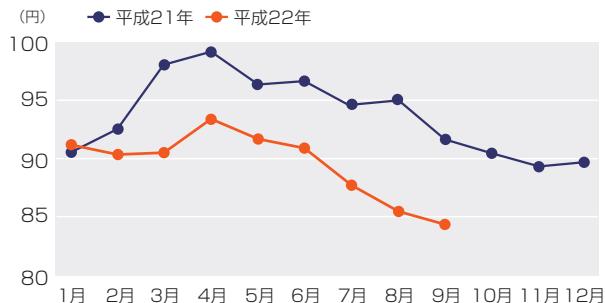
■当期(四半期)純利益 / 1株当たり当期(四半期)純利益



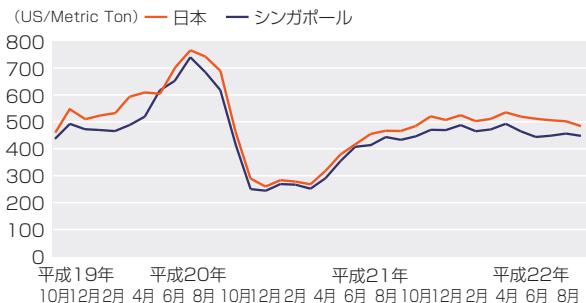
■純資産 / 総資産 / 自己資本比率



■対米ドル円換算率推移



■燃料油価格推移



*対米ドル円換算率 (公表相場TTMレート)

*日本、シンガポールは、当社燃料油主要補油地であります。
*燃料油価格推移 (出典: "Drewry Shipping Insight" etc)



■ 四半期連結貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円/端数切捨て)

科目	期別 前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年 3月31日)	当第2四半期連結会計 期間末 (平成22年 9月30日)	科目	期別 前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年 3月31日)	当第2四半期連結会計 期間末 (平成22年 9月30日)
(資産の部)			(負債の部)		
流動資産	10,212	11,412	流動負債	2,957	3,513
現金及び預金	7,330	7,128	海運業未払金	1,201	1,043
海運業未収金	399	402	短期借入金	1,075	968
有価証券	244	2,575	未払法人税等	—	1,109
貯蔵品	587	585	賞与引当金	24	24
その他流動資産	1,650	719	その他流動負債	655	368
固定資産	20,303	19,242	固定負債	5,247	4,270
有形固定資産	15,148	14,145	長期借入金	4,416	3,786
船舶	13,676	12,672	退職給付引当金	49	55
その他	1,471	1,472	特別修繕引当金	250	255
無形固定資産	6	5	その他固定負債	530	172
投資その他の資産	5,148	5,091	負債合計	8,205	7,784
投資有価証券	4,741	4,681	(純資産の部)		
その他	435	437	株主資本	21,584	22,513
貸倒引当金	△27	△27	資本金	3,351	3,351
資産合計	30,515	30,654	資本剰余金	2,098	2,098
			利益剰余金	16,140	17,070
			自己株式	△6	△6
			評価・換算差額等	726	346
			その他有価証券評価差額金	△123	△510
			繰延ヘッジ損益	△9	△2
			為替換算調整勘定	859	859
			新株予約権	—	9
			純資産合計	22,310	22,870
			負債・純資産合計	30,515	30,654

Point 1 資産

資産は、前期末比1億38百万円増加の306億54百万円となりました。

Point 2 負債

負債は、前期末比4億21百万円減少の77億84百万円となりました。これは主に長期借入金の減少、および未払法人税等が増加したことによるものです。

Point 3 純資産

純資産は、利益剰余金9億29百万円の増加があった一方、その他有価証券評価差額金が3億87百万円減少したこと等により、前期末比5億59百万円増加の228億70百万円となりました。



■ 四半期連結損益計算書(要旨)

(単位：百万円/端数切捨て)

科目	期別	前第2四半期連結累計期間 (平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで)	当第2四半期連結累計期間 (平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで)	比較増減
売上高(海運業収益及びその他の営業収益)		6,744	9,616	2,872
売上原価(海運業費用及びその他の営業費用)		5,771	7,040	1,268
売上総利益		972	2,576	1,603
一般管理費		486	459	△26
Point 4 営業利益		486	2,116	1,630
営業外収益		186	109	△77
営業外費用		195	278	83
経常利益		477	1,947	1,470
Point 5 特別利益		186	92	△93
特別損失		—	6	6
税金等調整前四半期純利益		663	2,033	1,369
法人税、住民税及び事業税		484	1,102	617
法人税等調整額		△212	△292	△79
Point 6 四半期純利益		391	1,223	831

Point 4 営業利益

営業利益は、前年同期と比べ海運市況が大幅に改善したことにより、前年同期比16億30百万円増加の21億16百万円となりました。

Point 5 特別利益

特別利益として、用船契約解約金92百万円を計上いたしました。

Point 6 四半期純利益

四半期純利益は、前年度の当期純利益9億83百万円を上回る12億23百万円となりました。



■四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：百万円/端数切捨て)

科目	期別	前第2四半期連結累計期間 (平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで)	当第2四半期連結累計期間 (平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで)	比較増減
Point 7 営業活動による キャッシュ・フロー		△307	3,974	4,282
Point 8 投資活動による キャッシュ・フロー		456	1,343	886
Point 9 財務活動による キャッシュ・フロー		△1,099	△788	310
現金及び現金同等物に 係る換算差額		△192	△507	△315
現金及び現金同等物の 増減額		△1,142	4,021	5,164
現金及び現金同等物の 期首残高		9,853	5,365	△4,488
現金及び現金同等物の 四半期末残高		8,711	9,386	675

Point7 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動により増加した資金は、前年同期比42億82百万円増加の39億74百万円となりました。増加の主な要因として、税金等調整前四半期純利益が前年同期比13億69百万円、また減価償却費が前年同期比1億65百万円増加したこと、および8億96百万円の法人税等の還付があったことがあります。

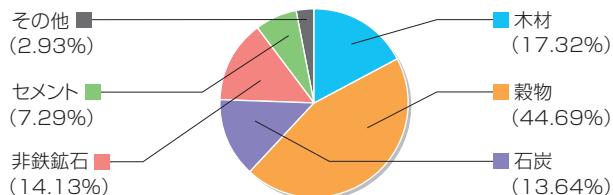
Point8 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動により増加した資金は、前年同期比8億86百万円増加の13億43百万円となりました。これは主に、前年同期にあった投資有価証券の売却による収入が当期はなかったこと、また当期は定期預金が全額満期を迎えたことにより定期預金の払戻による収入21億26百万円があったことによるものです。

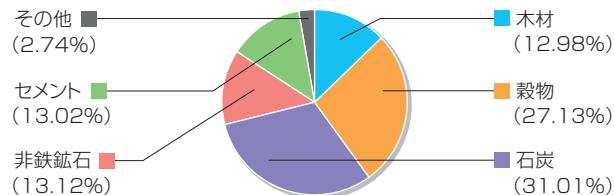
Point9 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動により減少した資金は、前年同期比3億10百万円増加の7億88百万円となりました。これは主に、減配による配当金の支払の減少分4億66百万円によるものです。

■主要貨物別売上高 当第2四半期累計(平成22年4月1日から平成22年9月30日まで)



■主要貨物別輸送量 当第2四半期累計(平成22年4月1日から平成22年9月30日まで)





会社概要

商号	乾汽船株式会社 INUI STEAMSHIP CO.,LTD.
本社	〒103-0023 東京都中央区日本橋本町一丁目7番4号 岡本ビル
設立	昭和8年10月21日
資本金	33億5,168万2,819円
従業員数	陸上:34名 海上:10名 合計:44名

役員

代表取締役 取締役社長	乾 新 悟
代表取締役 専務取締役	小 南 強
取 締 役	阿 部 健 二
取 締 役	清 田 昌 宏
取 締 役	前 田 哲 也
常 勤 監 査 役	西 村 寛
常勤監査役(社外監査役)	畑 信 夫
監 査 役(社外監査役)	上 谷 佳 宏
監 査 役(社外監査役)	濱 根 義 和



運航船腹／建造予定船腹 (平成22年10月31日現在)

	船 名	重量トン(K/T)	竣工年
社 船	乾安丸	32,115	平成 9年
	矢作丸 (石炭専用船) <small>(注) 矢作丸 (当社持分20%) は、株商船三井との共有船であります。</small>	88,835	平成 4年
	KEN SHO	23,581	平成 7年
	KEN JYO	23,583	平成 8年
	KEN ZUI	23,564	平成 8年
	KEN UN	23,638	平成 8年
	KEN KOKU	23,647	平成 8年
	KEN SAN	24,102	平成 9年
	KEN TEN	24,086	平成 9年
	KEN YU	24,115	平成11年
	KEN GOH	31,939	平成13年
	KEN RYU	31,949	平成14年
	KEN MEI	29,734	平成15年
	KEN HOU	29,699	平成16年
KEN REI	31,866	平成18年	
KEN SEI	31,771	平成22年	
長期用船	6隻		
建造予定	未定 (長期用船)	24,000	平成23年
	未定 (自社船)	33,000	平成24年
	未定 (自社船)	33,000	平成25年
	未定 (自社船)	33,000	平成26年



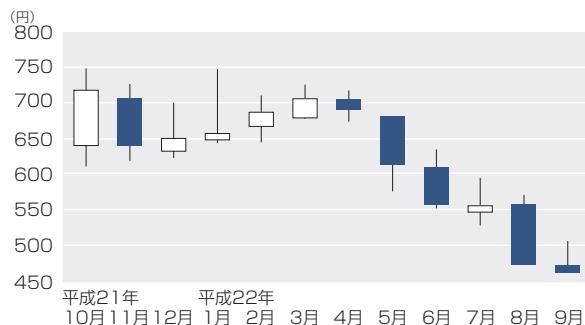
株式の状況

- 発行可能株式総数 …………… 100,000,000株
- 発行済株式総数 …………… 29,429,335株
- 株主数 …………… 12,924名
- 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社商船三井	2,800	9.51
乾光海運株式会社	1,402	4.76
東京海上日動火災保険株式会社	1,400	4.75
乾 英文	1,249	4.24
J.P. MORGAN CLEARING CORP-SEC (常任代理人 シティバンク銀行株式会社)	1,178	4.00
三井住友海上火災保険株式会社	1,150	3.90
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,094	3.71
尾道造船株式会社	1,000	3.39
株式会社愛媛銀行	683	2.32
株式会社三井住友銀行	520	1.76

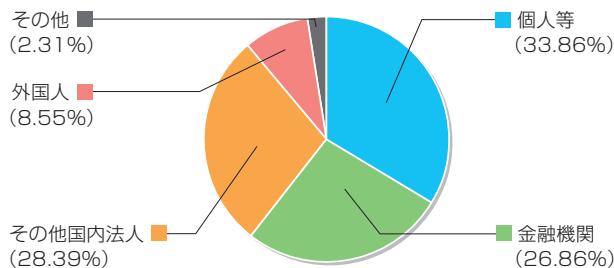
※千株未満は切り捨てております。

株価チャート・出来高

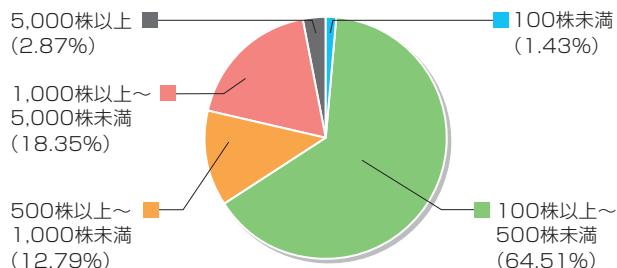


※株価チャート・出来高は、(株)東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

所有者別株式分布状況 (株式数比率)



所有株式数別株主分布状況 (株主数比率)





株主メモ

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	(定時) 3月31日 (臨時) あらかじめ公告する一定の日
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	☎0120-78-2031 取次事務は中央三井信託銀行株式会社の全国各支店ならびに日本証券代行株式会社の本店および全国各支店で行っております。
公告方法	電子公告によります。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 <公告掲載ホームページアドレス> http://www.inuishop.co.jp/

配当金のお受取り方法についてのご案内

配当金のお受取り方法には現金受取り(配当金領収証)と口座振込があります。当社では、お受取り時に便利で確実な口座振込のご利用をお勧めいたします。口座振込には次の方法があります。

- ① 個別銘柄指定方式
保有されている銘柄ごとに、銀行口座等をご指定いただく方法
- ② 登録配当金受領口座方式
保有されているすべての銘柄の配当金を同一の銀行口座等でお受取りになる方法
※一度ご登録いただくと、その後はすべての銘柄の配当金を自動的にお受取りになれます。
- ③ 株式数比例配分方式
同一の銘柄であっても、証券会社ごとに保有されている株式数に応じて、それぞれの証券会社の口座で配当金をお受取りになる方法
※ただし、ご所有の株式の一部が特別口座に記録されている場合には株式数比例配分方式はお申しいただけません。

株式に関するお手続きについてのご案内

- 配当金の振込先のご指定等、株式に関するお手続きは次の通りとなっております。
 - ① 証券会社の口座に記録されている株式を保有の株主様
口座を開設されているお取引の証券会社にお問合せください。
 - ② 特別口座に記録されている株式を保有の株主様
中央三井信託銀行にお問合せください。
☎0120-78-2031(受付時間 平日9:00~17:00)
☎0120-87-2031(用紙請求専用ダイヤル 24時間受付・自動音声案内)
ウェブサイト http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html
- まだお受取りになられていない配当金に関するご照会等は、いずれの株主様も中央三井信託銀行にお問合せください。

<特別口座について>

特別口座とは、株券電子化までに、証券保管振替機構に預託されなかった株式について、株主様の権利保全のために、当社が株主名簿上の名義で中央三井信託銀行株式会社に開設した口座をいいます。この特別口座に記録された株式を売却するには、あらかじめ証券会社にご本人の取引口座を開設し、株式の残高を振替える必要があります。



乾汽船株式会社

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町一丁目7番4号 岡本ビル
TEL 03-3548-3270